

平成29年度6月定例記者会見 会見録

日時 平成29年6月30日(金)午後3時～3時20分

場所 市役所2階第1特別会議室

(市長)

はじめに、本日、閉会いたしました6月定例会議についてでございます。

6月定例会議につきましては、31日間のご審議をいただいたところございまして、提案いたしました、すべての案件につきまして、ご議決をいただきました。議員の方々からは、広域交流拠点の整備や相模原インターチェンジ周辺でのまちづくり、防災対策の取り組みなど、多岐にわたる質疑をいただきました。市といたしましても、引き続き、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

次に、東京2020オリンピック競技大会の事前キャンプ地決定についてでございます。

今月25日(日)に都内のホテルで、前回大会の開催国であるブラジルが、本市内での事前キャンプを行うことについてブラジルオリンピック委員会ならびに日本オリンピック委員会と覚書を締結いたしました。事前キャンプが実施され、世界最高水準のスポーツを身近に感じ、接することができますことは、子どもたちをはじめ、相模原市民にとりまして、何物にも代えがたい貴重な心の財産になるものと考えており、今から大きな期待を寄せております。ブラジル選手団の皆さまには、夢の舞台で大いに輝いていただけるよう、全力でサポートするとともに、市民の皆さまと一緒に応援してまいりたいと思います。

最後になりますが、銀河連邦建国30周年記念事業についてでございます。

銀河連邦は、昭和62年、当時の宇宙科学研究所(現在のJAXA)の施設があった2市3町で建国し、本年で30周年を迎えることとなりました。現在は、5市2町により、子どもの留学交流事業をはじめ、スポーツ交流や経済交流、銀河連邦フォーラムの開催など、様々な分野で友好を深めているところでございます。このたび、銀河連邦30周年を迎えるにあたりまして、各種の記念事業を行うこととなっております。8月6日(日)には、杜のホールはしもとにおいて「銀河連邦こどもワールドサミット～宇宙・夢・わたしたちの未来～」と題した、記念イベントを実施いたします。例年は、各共和国の子どもたちが、お互いの地域や文化を深く理解し、地域を越えた友情を育むため、「こども留学交流」を夏休み期間中に実施しておりますが、今年は、30周年記念事業として、銀河連邦の各共和国と、中国、カナダ、フランス領ギアナ、ウクライナの4カ国から総勢50人以上の子どもたちをお招きし、サミットに参加していただきます。サミットでは、まず、宇宙飛行士の山崎直子さんから、宇宙の魅力や夢を実現する方法などについてご講演いただいた後、銀河連邦を含む各国の子どもたちと山崎直子さん、JAXAの生田ちさと准教授が、宇宙への希望や地球の未来、人類の役割などについて話し合う予定となっております。また、杜のホールの多目的室では、山崎さんの宇宙での活躍を紹介するパネル展や全天周映

画の上映、宇宙飛行士のスーツ姿での記念撮影など、宇宙にちなんだ楽しい展示や体験コーナーも開設いたします。そのほかの主な記念事業といたしましては、少し先になりますが、10月21日(土)に、大船渡市におきまして「銀河連邦フォーラム」を開催し、東日本大震災をテーマにした講話や情報交換などを行う予定です。このフォーラムにあわせて実施される、『被災地「大船渡」の現状と復興の今が分かるツアー』では、現地視察などを通じて、参加される各共和国の住民の皆さまに、震災からの教訓や防災対策などを学んでいただく機会としていただければと考えております。ご都合がございましたら、銀河連邦建国30周年を記念する各種事業の取材をお願いいたします。

私からは以上でございます。

(記者)

三つほど質問があります。まず、一点目ですが市議会定例会における印象的な質疑などがあればご紹介いただけますか。二点目として、ブラジルが東京オリンピックの事前キャンプを相模原市の施設で行うことについて覚書を締結しましたが、昨年未あたりに事前キャンプ招致の動きがあるという報道がされ、それから決定までの動きが非常に早く感じたのですが、招致に成功した要因は何だと思えますか。三点目は、受動喫煙防止に関する対策について、何かアイデアがあれば教えてください。

(市長)

まず、このたびの市議会定例会についてでございますが、新年度が始まって間もないこともあり、補正予算を計上することはありませんでした。先ほども触れましたが、議員の方々からは広域交流拠点の整備や防災対策など、多方面にわたるご意見をいただいた議会という印象があります。また、財政的な厳しさを意識した中でのご意見もいただきましたので、現在の市の財政状況としっかりと向き合いながら、必要な予算を適正に手当てしていきたいと思えます。

インターチェンジ周辺のまちづくりにつきまして、中山間地域であり多くの山林が地域を占める津久井地域では、合併以前の相模原市と異なり、深刻な人口減少などの難しい課題がありますが、地域の皆さまが将来に希望を持てるまちづくりが実現できるよう、しっかり取り組んでいきたいと思えます。また、リニアが通る橋本や小田急多摩線の延伸計画のある相模原駅周辺における広域交流拠点の整備につきましても、広域的な都市機能を集約する事業として、しっかりと取り組むべき事業であります。これまでの本市では、橋本と相模原に相模大野を加えた三拠点の整備を進めてまいりましたが、広域的な連携を持つ市街地としての整備は行ってありませんでした。圏央道やリニアの整備、米陸軍相模総合補給廠の一部返還地等の活用、小田急多摩線の延伸など、大きなプロジェクトが動き出したことにより、この好機を生かし、本市だけでなく首都圏南西地域の交流拠点都市としての役割を果たすようなまちづくりを進めていかなければならないと考えており、市議会からも取り組みを応援していただくご意見をいただいたところでございます。

そのほかにも、自助、共助による災害への備えに関することや、多くの貧困を抱える子どもたちを支援できるような奨学金制度に関する事など、多くのご意見やご質問をいただき、今後、

市としてしっかりと取り組むべきことを確認させていただいた議会であったと思います。

次に、ブラジルが東京2020オリンピック競技大会における事前キャンプ地として、本市の体育施設を利用することについて覚書を締結した件でございますが、本市でのキャンプ実施が数ヶ月で一気に決定したような印象をお持ちのようですが、実際にはもっと前から動きはありました。はじめてブラジルから問合せをいただいたのは2年ほど前のことで、その後、ブラジルオリンピック委員会の関係者に5回ほど本市にお越しいただいたほか、今年の5月にはブラジルの国情や東京大会に向けて取り組む姿勢を理解いただきたいということで、ブラジルから招待を受け、教育長をはじめ担当職員がブラジルを訪問させていただきました。担当のスポーツ課職員による調整の成果もあって、お互いの気持ちを理解することができ、ブラジルが相模原に対して好印象をもっているというお話しをいただいたことは、大変嬉しく思っております。今後の手続きといたしましては、正式に協定を締結することや、事前キャンプで選手を迎える宿泊施設へのトレーニング機器の設置、ブラジルの選手の体型にあったベッドの準備などのほか、練習を行う施設においても、国際基準に適合しない一部のプールの飛び込み台や、最新の設備でない飛び込み競技の飛び板を更新するなど、環境面での整備をしっかりと進めていきたいと考えております。

また、オリンピック開催までに、国において受動喫煙の防止に関する法律の制定などを目指しているところでございますが、小規模の飲食店での対応など、最終的な内容が見出せていないように思われます。現在、受動喫煙の防止に関しては、県の条例や市の路上喫煙の防止に関する条例などがあり、既に対応が可能な部分もあると思っておりますが、国際的な一大イベントが行われる中で、海外からいらっしゃった方々が不快な思いをされないためにも、国で定める対応策ともさらに連携していくことが重要であり、必要であれば本市の条例も見直していくことになると思っております。

(記者)

パラリンピックの事前キャンプについては、ブラジルのパラリンピック委員会から何らかの動きはあるのですか。

(市長)

現段階ではありません。

(記者)

パラリンピックの事前キャンプについて、調整をしている国はあるのですか。

(市長)

現段階で、パラリンピックについて正式に相談を受けている国はありませんが、本市で開催していただきたいと思っております。市としてもPRしていきたいと思っております。

(記者)

オリンピックと比べ、パラリンピックの方が選手団を受け入れる際の、施設のバリアフリー化

など、設備面での準備が必要になるのでしょうか。

(市長)

パラリンピックの競技種目にあわせた施設の整備も必要になるものと思います。事前キャンプの受け入れを行うこととなれば、施設を使用する選手の要望を見極め、必要な整備を行っていきたいと思います。

以 上